

### 1-3. 運転トリップのどこで事故は発生するか？

#### 背景・目的

前年度に同じテーマで分析した結果、事故は運転の半ばから後半にかけて多く発生すること、運転予定時間が短い場合には事故はトリップの半ばで発生しやすく、運転予定時間が30分から90分の場合には事故はトリップの後半に多く発生しやすく、運転予定時間が90分を超えると事故はトリップの最後の1/5の時点で最も多く発生しやすいことが明らかとなった。今年度は、同様の分析をおこなって、上記の知見が得られた理由を調べる。また、運転トリップ中の事故発生時点に影響する運転予定時間以外の要因を探す。

#### 概要

交通事故総合分析センターが保有するマイクロ事故統計データベース（1993年から2008年分）を用いて、四輪車および二輪車の運転者が関与した人身事故の中で、出発から事故までの運転時間と出発から到着までの運転予定時間がもれなく記載されているもの3,061ケースを対象とした。

運転予定時間の長さによってトリップを4つに分けて事故時点を調べた。運転予定時間が15分以内の場合と16分から30分以内の場合、共に事故はトリップの半ばで多く発生していた。運転予定が31分から90分以内の場合、事故はトリップの後半で多く発生し、91分以上の場合、事故は最後の1/5の時点で最も多く発生していた。運転予定時間が30分以内の事故においてトリップの半ばで事故が多く発生する理由は、出発地に近い場所では慣れた道を通るケースが多かった点が考えられた。しかし、目的地に近い場所では慣れた道を通り事故にあったケースが多いとは言えなかった。運転予定時間が長くなると事故がトリップの後半で多くなる理由は、運転に伴う疲労がトリップの後半ほど大きくそれが事故危険性を増したこと、通行頻度が「ほぼ毎日通行」の割合は事故時点が後ろになればなるほど少なくなったことに起因すると考えられる。

通行目的を私用（買物）、私用（その他）、通勤・通学、業務の4つに分けて、事故時点の分布を調べた結果、通勤・通学時のみ凸型を示し、他の3つの目的では右上がり型で事故は後半になるほど多かったが、これはほぼ運転予定時間で説明された。